

# 内野守備

外国人内野手と日本人離れた内野手の競演

打てる三塁手の確保がチーム力強化へのポイントか。職人のような「技術型内野手」全盛期から、外国人内野手にも負けない、「身体能力型内野手」たちの時代へ。

## レギュラー内野手が2人抜けたロツテ

まずは各チームの2015年オフの動向を踏まえて、16年の内野布陣を確認してみる。

パ・リーグを制したソフトバンクは、16年も二塁の競争が熱いまま。明石健志、川島慶三、高田知季、本多雄一らが争う。メジャー挑戦と伝えられている李大浩が抜けると一塁にも影響が出るが、明石、中村晃、吉村裕基らもいるので守備としては問題がない。松田宣浩の残留により、今宮健太との「鉄壁の三遊間」は今年も健在だ。日本ハムは、順調であれば一

計画的な育成と、必要最低限の補強で回していく日本ハムらしい状況が続く。シヨートに名手を生み出す伝統のあるチーム。中島は今宮からゴールデングラブを奪った。

大変なのがロツテだ。二塁でゴールデングラブを受賞した、どこでも守れるクルースと、三塁レギュラー、4番も打った今江敏晃が抜けてしまった。この緊急事態に韓国サムスンで活躍した右の大砲ナバー口を補強。二塁と三塁を守れるのか。昨年今江の穴を埋めた2年目の中村奨吾の成長には期待がかかる。

西武は一塁・メヒア、二塁・浅村栄斗、三塁・中村剛也までは今年も固定メンバーだが、遊撃が混

戦だ。前年に引き続き、金子侑司、渡辺直人、鬼崎裕司、外崎修汰らの争いが予想される。

オリックスは遊撃・安達は一は固定だが、他は流動的。二塁は西野真弘、綿田拓弥、岩崎恭平、原拓也らのレギュラー争い。一塁はできれば今年こそ安定的に中島宏之に守ってもらいたいところ。三

塁は小谷野栄一と補強したモレルの争いか。一、三塁とDHはプランコヤT、岡田も交えた大激戦になる。

楽天は一塁に銀次、二塁・藤田一也、FA補強した今江が三塁で、遊撃を後藤で固定できるかどうか。将来性のあるルーキー吉持亮汰と茂木栄五郎も即戦力で使いたい。



「身体能力型」内野手の代表格は、やはり広島・菊池涼介